

胃がん検診チェックリスト

市町名:

胃がん検診のためのチェックリスト【検診機関用】^{注1)}

検診機関名 (個別 ・ 集団)

胃がん検診(一次検診)の検査方法は何ですか？(重複回答可)

1.胃部 線検査 2.胃部内視鏡検査 3.その他()

2.内視鏡検査にのみ をつけた機関は、下記設問 2(4)～3(3)は空欄で可

1. 受診者への説明	選択肢	回答
(1) 要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを事前に明確に知らせている	1.はい 2.いいえ	
(2) 精密検査の方法や内容について説明している	1.はい 2.いいえ	
(3) 精密検査の結果の市町村への報告などの個人情報の取り扱いについて、受診者に対し十分な説明を行っている	1.はい 2.いいえ	

2. 問診および撮影の精度管理	選択肢	回答
(1) 検診項目は、問診及び胃部X線検査としている	1.はい 2.いいえ	
(2) 問診は現在の病状、既往歴、家族歴、過去の検診の受診状況等を聴取している	1.はい 2.いいえ	
(3) 問診記録は少なくとも5年間は保存している	1.はい 2.いいえ	
(4) 撮影機器の種類(直接・間接・DR撮影、イメージ・インテンシファイア(I.I.)方式等)を明らかにしている。原則として間接撮影で、10×10cm以上のフィルムでI.I.方式とする	1.はい 2.いいえ	
(5) 撮影枚数は最低7枚としている	1.はい 2.いいえ	
(6) 撮影の体位及び方法は日本消化器がん検診学会の方式によるものとしている ^{注2)}	1.はい 2.いいえ	
(7) 造影剤の使用に当たっては、その濃度を適切に(180～220 W/V %の高濃度バリウム、120～150mlとする)保つとともに、副作用等の事故に注意している	1.はい 2.いいえ	
(8) 撮影技師は撮影に関して、日本消化器がん検診学会による研修を修了している。撮影技師の全数と、日本消化器がん検診学会認定技師数を報告している	1.はい 2.いいえ	

3. 読影の精度管理	選択肢	回答
(1) 読影に従事する医師は、読影医全数と日本消化器がん検診学会認定医数を報告している	1.はい 2.いいえ	
(2) 読影は、原則として2名以上の医師によって行っている(うち一人は日本消化器がん検診学会認定医とする) その結果に応じて過去に撮影したX線写真と比較読影している	1.はい 2.いいえ	
(3) X線写真は少なくとも3年間は保存している	1.はい 2.いいえ	
(4) 検診結果は少なくとも5年間は保存している	1.はい 2.いいえ	

4. システムとしての精度管理	選択肢	回答
(1) 精密検査結果及び治療 ^{注3)} 結果の報告を、精密検査実施機関から受けている	1.はい 2.いいえ	
(2) 診断のための検討会や委員会(第三者の胃がん専門家を交えた会)を設置している	1.はい 2.いいえ	
(3) 都道府県がプロセス指標(受診率、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度)に基づく検討ができるようデータを提出している	1.はい 2.いいえ	
(4) 実施主体へのがん検診の集計・報告は、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目で集計している	1.はい 2.いいえ	

注1) 「表題」 本チェックリストは「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」一部改正(平成18年3月通達)に基づき作成

注2) 「2.(6)」 新・撮影法・変法、直接撮影法、DR (Digital Radiography) 及びFPD (Flat Panel Detector) による撮影法は、日本消化器がん検診学会発行、新・胃X線撮影法(間接・直接)ガイドライン(2005)を参照

注3) 「4.(1)」 組織や病期把握のための内視鏡治療など